

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2018年
11月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者
司祭 小南 晃

印刷所
文明堂印刷所

私の十字架を背負って

主教 オーガスチン 小林 尚明



しました(神のおとずれ2018年1月・2月号参照)。今回はこのみ言葉について、私が今考えていることを書きたいと思います。

フィリポ・カイサリア(マルコ8:27)にて

昨年の教区会(11月23日)の開会演説で、イエス様の言われた「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。(マタイ16章24節)」というみ言葉を、私に語られたみ言葉として聞いて、考えてみてくださいとお話し

イエス様は、弟子たちを連れてフィリポ・カイサリア地方に行かれます。弟子たちがどれだけご自身のことを理解したかを確認し、これから歩みだすエルサレムへの道が、十字架の道であることを教えるためです。イエス様は、人々のご自身への評価を聞き

た後、弟子たちに「それは、あなたがたはわたしを何者だというのか」と質問されます。ペトロが弟子たちを代表して「あなたはメシア(救い主)です」と答えますが、イエス様は「ご自分のことを誰にも話さないようにと弟子たちを戒められた」と書いてあります。何故なら、弟子たちは、イエス様はエルサレムに上って王様になることを期待して、31節以下で示されるイエス様の役割(エルサレムで殺されるけれども、復活してイエス様を信じる者に永遠の命を約束する)を理解していないのです。その違いが、ペトロがこの後叱られる原因になります。

十字架を背負って、わたしに従いなさい。」というイエス様の招きの言葉です。「自分を捨てる」とは、ペトロたちにとって自分たちの欲望や出世などでしょう。そして「自分の十字架を背負って」というのは、十字架は当時の処刑の道具ですから、「死を覚悟して」という意味でしょう。また「わたしに従いなさい」というのは、十字架に進んでいかれるイエス様の後に従っていく、ということなのです。

十字架を背負う

しかし、現代に生きる私たちにとつては、どうでしょうか。「自分を捨てる」とは、自分の欲望や「自分のために生きる」とではないか、と考えます。また自分の「十字架を背負う」というのは、辛いこと、苦しいことと考えやすいのですが、私はイエス様の十字架こそ天におられる神様がイエス様にだけ与えられた「役割」だと考えるのです。そうであれば、私の十字架こそ、私だけに与えられている「役割」だと考えるのです。神様が私だけに与えて下さった「役割」を理解して、その役割を担っていくこと、それこそ自分の十字架を背負ってイエス様に従っていくことになるのではないかと考えるのです。そして自分に与えられている役割を見つける方法は、色眼鏡をかけて自分の周りを見ることです。色眼鏡には、二つのレンズがあります。一つは「神様を愛する」というレンズです。もう一つは、「隣人を自分のように愛する」というレンズです。この二つのレンズをつけて、周りを見回せば、おのずから神様が私だけに期待されている「役割」は見えてくるでしょう。その役割をしっかりと担って、生きていく。それが私の十字架を背負って、イエス様に従う生き方だと信じています。どうでしょうか。皆さんが神様から期待されている役割を発見し、それを背負って、喜びに満ちた信仰生活を過せますように、お祈りいたします。

(神戸教区主教)

速報 北海道 胆振東部 地震について

北海道教区

「聖公会ボランティアセンター」活動

9月6日(木) 午前3時7分、北海道の胆振(いぶり)地域の東部に最大震度7の地震が発生しました。北海道教区は苫小牧聖ルカ教会に「聖公会ボランティアセンター」を設立し、9月19日から2週間、災害ボランティア活動を開始しました。8月の西日本豪雨被災者支援活動では、多くの方からご協力を得たお礼とご恩返しの意味も含めて、小林主教様の命を受け、教区被災者支援室から北海道に派



遣わせていただきました。ボランティア内容は、鶴川町の社会福祉協議会を通しての活動で、町内の家庭から出された災害ゴミの回収と集積場への運搬でした。テレビなどで報道されている厚真町に



比べ、鶴川町は土砂崩れの影響もほぼなく、地震の影響で壊れた家具などの片付けが中心で、土砂をかき出し、土のう袋に入れて積み上げる作業という水害との違いを感じました。また、こ

どこの被災地の方々も予期せぬ悪夢に驚いておられる痛みの声を耳にしました。地震、台風、水害など災害の種類や被害の大きさは異なるかもしれませんが、被災された方々の生活を奪い、簡単には癒えない深い痛みや悲しみを与えたことは決して比べられることはできません。そんな被災された方々のために私たちは一体何ができるのでしょうか。いつもその非力さに胸が痛みます。けれども、神様は、災害によって小さくされた人たちに豊かな恵みを与えてくださると信じます。支援する一人ひとりには微力ですが、それが様々な形で結びつくとき、人の絆と言う神様のみ業が光り輝くのです。広島と倉敷に東北や九州の方々に来てくださいました。このような支援の輪が広がって行くことがどれほど心強いことであるか。聖公会として、キリストの体としての支援の働きが重要であると思えました。

（社会部長 司祭 瀬山会治）
の言葉を聞き、

青年交流会 神戸聖ミカエル教会で開催!!

8月28日(火)〜30日(木)まで青年交流会が神戸聖ミカエル教会にて行われました。1日目と2日目は境内の庭木の伐採と処理を行い、3日目は、教区事務所3階図書館奥にある倉庫の整理を行いました。



青年交流会が始まる前日から、上原信幸司祭と宮田祐三神学生が高所作業車を借りてきてくださり、木の伐採をしてくださいました。青年交流会が始まる時間には、境内は伐採した木でいっぱいでした。猛暑の中、みんな汗だくになりながら、一生懸命伐採した木を細かく切り、袋に詰めていきました。私たちが作業をしている姿を見て、たく

さんの方々が手伝ってくださいました。その時、私は改めて教会の素晴らしさに気づくことができました。それは、困っているとすぐに近寄ってくれる人がいること、励ましてくれる人がいること、助けてくれる人がいること、心配してくれる人がいることです。クリスチャンでなければ、こんな素敵な人たちに出会うことはできないのではないかと思います。また、みんなで協力し奉仕して、教会が綺麗になったことがとても嬉しかったです。

これからも青年交流会が素敵な出会いの場と交わっています。最後にお手伝いをしてくださった皆様、また青年交流会に献品をしてくださった皆様、お祈りして支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。そして、ワーカーの間、1人ひとりを見守ってくださいました神様に感謝します。

（中村 真衣・神戸聖ミカエル教会信徒）



信徒訪問

伝道区交流会が大洲ホテル「にしかわ」をメイン会場に行われ、私たち夫妻もお招きに与かりました。

大洲聖公会の管理牧師柳本博人司祭のご配慮で、今治在住の大洲の信徒で、高齢・独居の方を途中、訪問させて頂いていただきました。最初に保存聖体の陪餐に与かりましたが、丁寧な式文が用意され、心のこもった礼拝に感激しました。

式後、今度は彼女の手作りの昼食がテーブル一杯に用意され、四人で楽しい時を過ごさせて頂きました。神戸に帰ってから自宅に冷凍の手作りカレーが送られてきて、これまたおいしく頂きました。

脇川(ひじかわ)の鵜飼

今治訪問の後、大洲に向かいホテル「にしかわ」でしばしの休憩、夕食は参加者約三十人が二艘の船に分かれていただきました。食事

の後、今回のメインの鵜飼いでした。

舟の先の方にかがり火を灯し、船を前進させながらの漁法です。それを自分たちの船から見学するので、何か違うなあ、と感じていました。それがなぜなのか船頭さんの説明で分かったのですが、海でのかがり火を灯しての漁法は、魚がかかり火に集まってくる

ところを取るそうで、川でのかがり火の漁法は灯りに驚いて逃げていく魚を追いかけるというものです。「悪を行う者は皆、光を憎み、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光の方に来ないからである。(ヨハネ3・20)」というイエス様のみ言葉を思い出して一人ニヤニヤしていました。

その日は、お昼から雨が降り、少し暑さが和らいだようでした。また船上もそれまでの暑さが嘘のように、涼しく心地よかったです。まるで今年の猛暑の中生を一生懸命神様のために働いたご褒美のように感じました。そして一緒に船に乗っている皆さんにも、それぞれご褒美なんだ、と幸せな気分になりました。

次の日の主日には、ホテルで伝道区長の林和広司祭の司式、私の説教で聖餐式を守りました。感謝。

(神戸教区主教)

特集

隠れキリシタンの強さ

今年の6月、『長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産』が世界遺産に登録されました。当初は『長崎の教会群とキリスト教関連遺産』として登録を目指していましたが、選定委員会の指摘を受けて「潜伏キリシタン(クリスチャン)」を焦点にすることに、今回の登録が実現したのでした。つまり、国宝の大浦天主堂をはじめとした長崎の教会堂よりも、潜伏キリシタンの存在の方が世界的には驚くべきことと、世界の遺産とするべきこととされたわけです。

「潜伏キリシタン」とは、所謂「隠れキリシタン」のことです。しかし、厳密には幕末に宣教師が遣ってきた際、カトリック教会に加わった隠れキリシタンもいれば、カトリック教会に加わらず、代々からの信仰を守り続け、今に至っている隠れキリシタンもいます。それらを区別するため、宣教師たちを受け入れた人々を「潜伏キリシタン」、独自の信仰を守り続けている人々を「カクレキリシタン」と呼ぶようになりました。そして、カクレキリシタンは世界遺産に含まれていません。今回、広報部から「なぜ、聖職者が一人もいない中、隠れ

キリシタンたちは260年もの間、禁教下にあつて信仰を守り続けることができたのか。その謎について書いてほしい」と依頼されました。「なぜ」と言われても、簡単に説明できることではありませんが、わたしが注目しているのは「コンフラリア」です。

コンフラリアは13世紀にヨーロッパで始まった、信徒が自主的に組織運営したグループ活動のことです。彼らは、自らを鞭打つこと、病者を訪問・看護すること、行き倒れの死者を埋葬すること等、それぞれのグループが独自に信仰の実践方法を取り決め、定期的な選挙で選ばれた信徒のリーダーの下、実行していました。

ザビエル以降、日本に遣ってきた宣教師たちは少ない人数で伝道・宣教するために、洗礼を受けた各地のキリシタンにコンフラリア作りを奨励したようです。特に地方集落のキリシタンはコンフラリア(組)によって、聖職者がおらず、聖堂がなくても、自分たちだけで礼拝をはじめとした信仰の業を実践する習慣が身につくようになっていきました。

よくキリシタン時代の伝道については、西洋文化に対する憧れが人々を惹き付けたと言われています。確かに、キリシタン時代には多くの大名や武将が洗礼を受けており、彼らのその後を見ていくと、

文化的な憧れが強かったのではないかと感じることもあります。しかし、そのようなキリシタンばかりではなく、高山右近のように殺伐とした戦国の世にあつて、愛の実践と天国への希望に満ちたキリシタンの信仰が、着実に民衆に受け入れられ、隠れキリシタンとして長い禁教時代を耐え忍ぶことができたのです。

興味深いことに、禁教下にあつて、時に役人たちは隠れキリシタンたちの誠実さを評価していたようです。辛抱強く、真面目に年貢を納めようとする民を失うことを嫌った役人らが、隠れキリシタンの存在をしばしば見逃していたようなのです。その結果、幕末に宣教師が遣って来ると、何千人もの潜伏キリシタンが次々と姿を現すという、世界を驚かせた奇跡が実現したのでした。

これを機に「世界遺産となった教会堂を大事にしよう」というのも悪くはありません。しかし、わたしたちは隠れキリシタンに倣い、「信仰に基づく愛の実践共同体」としての教会を築いていく方がより大切だと思います。そして、次世代が喜ばずにはおれない信仰を何よりの遺産として継承して参りましょう。

司祭 中原康貴
神戸聖ペテロ教会牧師、
神戸聖ミカエル教会副牧師

鳩だより 《敬称略》

祝 洗 礼

9月8日(土) アグネス 長澤 初子 姫路顕栄教会

祝 堅 信

9月16日(日) セバスチャン 大和 慎吾 明石聖マリア・マグダレン教会

ご 逝 去

9月8日(土) アグネス 長澤 初子 姫路顕栄教会

9月17日(月) ベタニアのマリア 八幡 多美子 姫路顕栄教会

9月24日(月) マリア 種谷 久子 神戸聖ミカエル教会

12月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2018年12月6日(木)午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 司祭 八代 智

*12月の記念逝去教役者

Table with 3 columns: Date, Position, Name. Lists deceased clergy members for December 2018.

祝 聖 婚

9月16日(日) ニコラス 脇坂 隼輔 南波 香名子 広島復活教会

西四国伝道区

伝道区交流会合同礼拝報告



去る9月1日(土)〜2日(日)にかけて、西四国伝道区交流会・合同礼拝が大洲にて開催されました。参加者は、30名でありました。

この交流会には小林教区主教ご夫妻も参加され、1日の夜は大洲名物である鵜飼いを見ながらの夕食会を行い、2日は旅館にし川にて伝道区合同聖餐式をお捧げしました。天候にも恵まれ、小林主教ご夫妻を囲んで有意義な時間を過ごすことができました。

徳島伝道区

伝道区信徒研修会を開催！

去る9月24日(秋分の日)午後2時から、徳島聖テモテ教会を



会場に、約30名が参加して開催された。今回は「認知症」について、講師に山口幸氏(神戸国際大准教授)をお迎えして、認知症の基礎知識、早期発見のシグナル、認知症になっても「その人らしい」暮らしを可能にする「パーソンセンタードケア」

公 示

日本聖公会神戸教区第88(定期)教区会を下記のように招集します。
救主降生2018年9月20日
日本聖公会神戸教区 教区会議長
主教 オーガスチン 小林尚明

記

第88(定期)教区会
日時: 2018年11月23日(金・祝)
午前9時から午後5時まで
場所: 神戸聖ミカエル大聖堂
第88(定期)教区会を招集するにあたり、書記を下記のように任命します。
司祭 ペテロ 中原康貴
司祭 セバスチャン 浪花朋久

広報部からのお願い

いつも神のおとずれをお読みくださり、ありがとうございます。
広報部では、2019年の神のおとずれに「教会のお葬式Q&A」という特集を掲載できるように企画しております。つきましては、読者の皆様から、キリスト教のお葬式についてのご質問を募集致します。(例:キリスト教のお葬式は、信徒以外でも使用できるのか?/お葬式で好きな聖歌は選べないのか?など簡潔に。)応募してくださいました中から、いくつかの質問に聖職が回答致します。
皆様からのご質問、お待ちしております。
◎募集方法
メールで「質問の方」
kaminotozure@live.jp(お題名)「お葬式のご質問」とご記入ください。
郵送で「質問の方」
〒697-0022
島根県浜田市浅井町260
浜田キリスト教会
浪花朋久まで